

学連員とは

- ・正式名称は関西学生陸上競技連盟、略称で関西学連。

大学生が陸上の大会に出場するためにはまず所属大学がこの学連に加盟していなければなりません。

- ・ちなみに学連は日本各地に存在し、北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中四国、九州学連の全部で八つがあります。これらの連盟はすべて日本学生陸上競技連合が統括しています。

- ・中学では中体連、高校では高体連が、各都道府県陸協と協力して大会を運営していることは当然知っていると思いますが、大学では学連が陸協と協力して、T&F やロードレース、駅伝を運営しています。

- ・学連は各地で大会を主催します。関西学連は関西インカレをはじめ、三支部（大阪兵庫京都）インカレ、学連競技会（記録会）、関西女子駅伝、関西学生駅伝を主催しています。

- ・学連員とは加盟校の陸上部から派遣される、言わば事務員です。公務員だと思ってください。よって学連員は競技をしていてもしていなくても、どこかしらの大学の陸上部員ということになります。学連員は大別して二つの仕事を行います。

- ・一つは主催大会における「学生審判」で、その名の通り審判です。陸協の先生と対等な立場と権限を以て大会を運営します。「学生補助員」は審判ではないため各種権限を持たないので、その意味で学連員は補助員より上の立場として扱われます。たとえばT&Fの部署には、スターター、出発、投擲、跳躍、混成、用器具、競技者、写真判定、マーシャル（場内規制）、風力、アナウンス、大型電気情報機器（電光）、記録情報処理、総務、表彰があります。ちなみにこれだけ多くの部署を学生が管轄しているのは日本全国で関西学連だけです。一回生時に一通り色々な部署を経験したのち、二回生以降で希望や適正に基づき各部署に固定されます。駅伝にも中継所などの部署があります。

- ・二つ目は学連そのものの運営に携わる「役職」です。学連員は幹事長をトップに、会計、秘書、会計補佐、登録部（選手の登録が仕事）、記録部（大会のエントリーリスト作成や大会結果などの記録を処理する仕事）、兵庫支部長、大阪支部長、京都支部長、常任幹事（その他）という役職で構成されています。学連員は必ず何かしらの役職に就き、役職ごとの仕事をこなします。特に主催大会については大会担当という仕事があり、各大会につき誰かしらその役目を努めます。大会担当については主に三回生が務めます。要するに学連員になると何かしらの組織的な役割を担うということです。

- ・関西学連の事務所はJR大阪環状線の福島駅の近くに 있습니다。学連員はここに通り仕事をします。ここに通う際には往復で交通費が支給されます。また昼や夜の会議に出席するとご飯代（規定額）が支給されます。しかし残念ながら時給などは発生しません。一日中事務所で仕事をしていても、その日に会議がなければご飯代も出ませんし、お給料も出ません。

メリット

・役職によっては大会に協賛する企業や官公庁、市区町村、警察、消防、テレビ局と緊密に連携します。この際はあくまで1人の社会人として仕事をするのが求められるため、実社会での話し方から振る舞い方、名刺交換、議論の進め方に至るまであらゆる実経験を積めます。会議での話し方や議論の進め方、コミュニケーションの取り方など、社会に出る上で自分に足りないものを早期に発見して補うことができます。またここから社会人とのコネクションが生まれたり就活の動機が生まれたりすることも多々あります。抽象的でわかりづらいとは思いますが、やってみるととても面白いです。

・学連員や、選手、主務など、各大学の色んな人と出会えます。恋愛に発展することも余裕であります。出会いの場が劇的に広がることはメリットです。

・仕事終わりに同期や先輩後輩らと福島や梅田でご飯に行ったりお酒呑んだりして遊べます。また、プライベートで遊ぶこともあります。

・日本インカレや個人選手権、出雲駅伝、全日本大学駅伝、富士山女子駅伝、杜の都女子駅伝（仙台）など、日本連合主催の大会に派遣されると、新幹線や飛行機などの交通費やご飯代が支給され、手当ても出る上、日本全国の学連員と出会って友達になれます。また西日本インカレは日本連合主催ではないですが九州～東海の学連で運営するので、そこでも友達や知り合いが多くできます。僕は二回の11月で全日本大学駅伝に派遣され、名古屋に行ってきました。そこで北海道、仙台、東京、名古屋、広島、福岡など全国各地の知り合いが沢山できました。今ではプライベートでもお酒を飲んで語り合える仲です。

・マラソンや全国駅伝、GGP、日本選手権などで、新聞社やNHK、CITIZENなどの普通ではできないアルバイトができます。給料がとても高い上、トップアスリートに近い距離で仕事ができるので楽しいです。また吉本陸上に毎年審判で呼ばれるので吉本芸人にサイン貰ったり写真撮って貰ったりもできます。

・事務所には陸マガが置いているので読みたい放題です。僕も事務所で暇な時は読み漁ります。

・運転免許を持っていればハイエースやレンタカーを運転する機会がよくあります。僕は運転が好きなのでこれはメリットでした。

・ワードやエクセルなどのソフトを人並み以上に使いこなせるようになります。電話対応も上手くなります。

・部活はお金がないとできませんが、学連はお金無くてもできます。

・思いつく限りまだまだありますが、主観的なものが多くなってしまうので割愛します。

デメリット

・競技をしている選手にとっては、仕事があれば時間的に拘束されてしまうため、部活一本の選手と不平等になってしまうことがあります。ただ両立は十分可能です。学連を務めた神大のミドルの先輩は、関西インカレ優勝、日本インカレ出場を果たしましたし、僕も関西インカレで入賞することができました。

・自分が出場しない大会であっても、学連が主催する大会であれば審判として原則参加しないといけないため、平日であっても大学の授業を休まねばならないことがあります。これは年間で十日ほどあります。もちろん大学の授業が最優先なので休むことも可能です。

・自分が大会を担当する際は、その大会までのおよそ2カ月間は時間的に拘束されることが多くなります。一ヶ月前になると仕事が忙しくなるため、僕は繁忙期は週5~7で事務所に通っていました。人によって仕事の効率や量に差があるため一概には言えませんが、少なくとも大会担当期間中は拘束時間が長くなります。

・学連をしてメリットを享受できるかどうかはその人が学連での活動に価値を見出せるかどうかにかかっています。人によっては見出せないこともあり、この場合は時間と労力の浪費（デメリット）になってしまうかもしれません。そういう意味で学連では、人と会う機会や仕事をする時間が良くも悪くも豊富に与えられます。だからメリットとデメリットを明確に説明することは難しいです。

総括して僕はメリットの方がデメリットより大きいと感じています。

活動頻度

・任期は1回生~4回生の12月。

・忙しいのは自分の役職の仕事がある期間。年間で満遍なく通う役職もあれば、大会担当のように短期集中的に通う役職もあります。他はそれほど忙しくありません。事務所に行っても特に仕事がないこともあります。そういう時はもっぱら事務所を掃除したり、陸マガが全部揃っているのを読みあさったりできます。

年間費用

・実質0円。

・拘束時間中に食費補助がない場合や、あっても実際の支払金額の方が大きい場合はその差額を個人で負担します。例えばお昼の支給額は五百円なので、千円の弁当を購入した際は五百円は自腹になるということです。

・往復交通費は支給されます。

やってよかったこと

・たくさんあるけど主観に依存するので書くのはあまり効果的ではないかと…

就活に繋がるか

・学連をやったから就活に有利という関係性はありません。部活でもそうですが、その経験を通して自分がどう成長したのか、そのプロセスを的確に説明できるかどうかは自分次第です。ただ、自分の思考を相手に簡潔かつ的確に説明する能力を、社会人を相手にコミュニケーションを取りながら実践的に鍛えられる機会が多いという点ではとても有利だと思います。

・また学連の仕事をする上で就活先に対する視野が広がることもあります。例えば公務員を志望する人がいれば、実際に公務員と関わることでインターンシップのような体験をできるので知見を深められますし、メディアや広告に興味があるなら、新聞社やテレビ局、印刷会社と一緒に仕事をしてみても何か発見があるかもしれません。